



手と足

ライフスタイル

写真

Christoph Bauer

それは不変的な価値と比類なき作りを有するオーソドックスなもので、マイスターの手によって生み出される。前進する**1**メートル毎に心からの享楽を提供する。

有名なブダペスト靴の足跡をブダペストでたどる
手工業を営むドイツ老舗ディンケラッカーの工房にて。



手で仕上げる：
靴一足につき約**300**の仕事工程を手作業でこなす

と二重縫製の靴を、目に見えて印象的な軽快さの基礎としている。これが典型的なブダベスト靴なのだ。それから二つ目に、歩き心地の良さからくる、おなじみの大満足な男達の喜びに富んだ微笑に目をむけてみる。この微笑はともすると具体的なことを明かしてはくれないので、念のために三つ目。靴の製作工程を追跡してみよう。ブダベスト靴はブダベストで探すのが一番。というのは理に適った話だ。しかしながら、その生産地を見つけるのは容易でない。ハンガリーはドナウの大都市、その緑多き郊外にディンケラッカー手工業の工房は位置するのだ。が、そこへの道筋をエレガントな看板が指し示してくれるわけではない。この工房は村のようなゆったりとしたエリアの中にあり、操業停止中の工場スペースに定着した小屋や手入れの行き届いた実用園などにまぎれて、どちらかと言えば隠れている。余談ではあるが以前その工場では婦人用の靴が生産されていたそうだ…。

守衛所は大きな門の横に遠慮がちに添えられているようだが、中には昼夜兼行で守衛が目光らせ、きちんとその役割を担っている。靴の素材となる高価な皮革だけでも相当な価値がある。質のよいブルのカーフ皮革はイタリア産、艶のあるアニリンカーフはフランス産、馬皮は、脂質が高くしわがつきにくいので有名なコードバンを生産するシカゴのホーウィン・レザー社より取り寄せている。価値は素材だけに集約されるのではない。組織的な発展と靴の原型の開発をめぐる企業秘密は何よりも厳守されている。ここでは有限会社ハンリッヒ・ディンケラッカーの靴職人マイスターが靴内の足の状態についての最新知識を丹念な手作業で靴の品質へと生かしているのだ。

特徴をあげるならば：ディンケラッカーの靴は、最初から最後まで手作業で労わり、原則的には、靴の名前にもなり、靴職人技術が品質の象徴ともなったブダベストの町で作り上げられる。靴一足一足が全てオリジナル

真の紳士は薄い底の靴ではなく、原則的に手作りのコバがしっかりと縫い合わされたブダベスト製の靴を履いて女性をエスコートするものだ。そう男達は口を並べる。女性にはそれが受けるという。なぜなら女性は、堂々とした人物の自信に満ちた悠然たる姿を好むからだ。どうしてこのブダベストという名前の靴がこうも男性を変えてしまうのか、女性が実際に身をもって理解し得ないのは残念である。これが、例えば、ポルシェがブダベスト靴とは違う点であろう。女性はポルシェにしっかりと納まるが、ブダベスト靴では全くしっくり来ない。耐久性のある靴というのは、女性の間に変容する流行の前ではあまり魅力的ではない上、ただ値が張るだけになってしまう危険がある。だから、どうしても売り上げを気にしてしまう靴屋はその危険を冒そうとはしない。ブダベスト靴に女性の入る余地はないのだ。

ブダベスト靴の神秘的な魅力を探り出すために、女性には三つの可能性が残っている。まず、慎重に足を見ている。穴の装飾が施されたウィング・チップ、靴を一回りする靴底上部のヘリ飾り、軽く反らされた先端。紐靴

である。1879年以來ずっと、2007年になっても変わることなく続いている。言わせてもらうが、このコントラストが魅力なのである。完成したマイスターならではの傑作は、選び抜かれた靴販売店の整った環境の中で相応な値で売り出されている。ドイツの会社本部がビーティッヒハイム=ビツシンゲンへ移転したのを機に、新しい会社の所有者たちはそこで靴職人マイスターに直接オーダーメイドするエレガントなVIPショップを設けた。

訪問者がブダベストの工房の敷居を一度またげば、20世紀へとタイムトリップしてしまう。扉の向こうでは金槌などでコツコツ、とんとんと叩く音が聞こえ、皮と膠においがきつくと鼻を突く。三階の屋根のついたベランダでは靴が新鮮な外気の中、乾くように干されている。創立当時からあるかのような思い切り古びたコンピューターがたった一台、オフィス兼多目的部屋に置かれている。博物館行きともいえる機械がわずかながらある。巨大な秤の上では、ずっと以前にそうされていたように、皮革が鉄のおもりで測られている。古き良きシンガーマシンが誇り高気に確かな仕事をこなす。エルシェット・アルベッカーは眉間にしわを寄せながら手早に先ほど他の作業者が正確に切り抜いた皮に穴を開けてゆく。金槌、鉄、より糸、すりこぎ、筆は職人道具である。

自動車組み立ての際にエンジンと車のボディーが一体になる時のような高尚な瞬間が、靴の手工業にもある。それは靴のアッパー部分が引き伸ばされ靴型に留められる瞬間である。驚きの手作業：皮革は柔らかくされ、アッパーが木製の靴型に引っ張られ留められ、そして次の日もう一度引っ張って留める。長い期間形を保つように、数日寝かせた後、アッパーは靴型から取り外される。アッパーと靴底のふちが伸縮性のある内底に手作業で縫い合わされ、一針一針ごとにしっかりと留められていく。縫い合わされた後、やわらかい感触を出すためにコルクが敷かれる。

器用さ：
ブダベストの工房では手工業が芸術へと変わる



朝の6時からギュラ・シュクス(65)は靴を縫い合わせている。彼はこの仕事を毎日、51年も続けているのだ。午後2時まで、決まっていた椅子の上で、ずっとディンケラッカーのために作業してきた。マイスターの彼は、固定バンドで足のももにしっかりと留められた靴の原型にむかって身をかがめる。指のたこが不屈の職人史を無言で語る。靴一つで62針刺し、一足で124針を刺す。一度彼は計算をしてみたことがある。すると彼が過去半世紀にわたって靴を縫い合わせるのに使ったピッチをしみこませた特殊な糸は、地球を2周分ほどにまでなっていたのだ。背中は曲がっているが真直ぐ歩む彼は誇らしげに話す。「作り方は何十年もずっと変わっておりません。ずっと同じなんです」。彼は一日6足から7足作り上げる。以前よりも少しペースは落ちたものの、彼の器用さは他のマイスターや靴職人たちに引けをとらず、かけがえのないものだ。全部でブダベストの会社には35人の従業員がいる。職人技術は芸術でもあるから、彼らはハンガリーにおける平均収入の2倍の給料を受け取り、給料はたっぷりと払われている。この職業で失われつつあるのは社会の関心のほうだ。「私の息子はね」と、ギュラ・シュクスは始める。「ブドウ栽培者になりましたよ。しかし靴職人の彼はこれからも好んで靴型に向かう。

店舗では一足につき400から600ユーロで売り出されている。そこではやはり、ベルリン出身のアンドレアス・シュレヴィックのような説得力のある情熱的な売り手が必要だ。彼は、ブダベスト靴を州都ベルリンとハンブルクの高級ショッピング街にある5店舗で販売している。彼が経験上語るのは、「納得してくれる人たちは沢山います。ブダベスト靴を履くのは自己満足なんです」。職人芸を仕事場で肩越しに見ていければ、値段の実態をよりよく把握することができる。ブダベスト靴には、管理ナンバーとマイスター本人のサインが入り作業場から出荷される前に、約300の手作業による工程が必要とされるのだ。一足作り上げるのに正味約8時間はみなくてはならない。

現在年間8000足の靴を生産し評判も上々な会社ディンケラッカーは、新しい所有者とともに約130年の歴史に新たな章を設けた。会社創設者ハインリッヒ・ディンケラッカーの孫、ブルクハルト・ディンケラッカーは、全身全霊をあげて引き継いだものを守ってきたが、その手作業で続けてきた仕事の質の伝統を是非請け負いたいという手に任せることにしたのだ。ビツティッヒハイマーの企業家ノルベルト・レーマンはもう数十年もブダベスト



ト靴を履いて、それこそ成功の道を歩んできた。そしてよくあるように、彼の靴に対する情熱は、痛みを味わうことによって始まった。彼が35年前に大学の経営経済学部を卒業し、IBMで経営を担うポストに応募した頃、彼の頭の中には多くの知識とアイデアが沢山つまっていたのに、彼のたんすの中には会社の要求する紺のスーツもきちんとした靴も入ってはいなかった。履き古したよれよれの靴でキャリアが立ち往生しては元も子もない。そうする内に彼はブダペスト靴に出会ったのだ。それから、私は二度と他の靴は履かなくなりました」とレーマンは言う。

彼はマネージャーとしてブダペスト靴とともに取締役そして監査役会長にまでも上りつめた。そして有限会社ディンケラッカーの共同経営者になった今日、この仕事は彼の心を揺さぶり、責任感を奮い立たせる。初めて愛用するブダペスト靴の素朴な工房を見たとき、レーマンははっきり言って愕然としたようだ。「でも、すぐにここの手作業に魅せられて感激してしまいましたけれどね」。それから彼は自ら動き、相談役に有能なエキスパート、元サラマンダー取締役ヘルマン・ホステを呼び寄せた。彼らは、現在の160万ユーロの年間売り上げを更に上げることができるということで合意している。ホステは、言わば、靴のどこがあたり痛みをもたらすのか分かっているかのようだ。「ディンケラッカーの靴は高級な要素をかき集めたような製品で、更なる努力を投入し何々人を認識した靴の製造を続けることで売り上げを伸ばすことができる」とホステは語る。治癒へと導く方法は：唯一無二の貴重な仕事の質を巧妙なマーケティングで強調し、国内外の市場を押さえていくことにある。

ちなみに人間はゆりかごから墓場まで約16万キロメートル歩くそうだ。人々の歩みをサポートするという点では、ブダペスト靴もボルシェも変わらない。入念な手入れと定期的なサービスをもってすれば一生使えるのだ。

足が利くうちは、

You never walk alone

紳士靴についての豆知識

ブダペスト

ルポルターージュで詳しく紹介されているように、紳士靴の元祖。ブダペスト靴は、フル・ブローグ(穴装飾が全体に施されている状態)で、靴紐の部分が外羽根であるのが特徴である。靴はつま先が高めのブダペストスタイルの靴型で作られ、二重縫い製法で仕上げられている。

オックスフォード

全ての都会派シューズの父。シンプルなデザインは非常にエレガントな外見をかたどる。大抵は黒で、高価な光沢のある皮革で作られている。オックスフォードの特徴は、靴紐部分が内羽根になっている点。内羽根というのは、紐が結んであるか否かに関係はなく、アッパーの靴紐部分の羽がV字型に閉じられ、靴の前の部分で内側に縫い付けられているというアッパーの形で判断される。ドイツではオックスフォードを木の葉型と呼ぶ。

ダービー

ダービーの特徴は外羽根式のデザインで、靴紐の穴は2つから5つまで色々なバリエーションがある。ダービーは通常光沢のある足先部分が特徴で、穴が施された一直線のつま先飾りを持つハーフ・ブローグ(靴全体の半分にだけ穴が施されている)やウィング・チップ(W型のつま先飾り)のフル・ブローグが作られている。この靴は一般的にオックスフォードよりもスポーティー。

ブーツ

多様なフォームがあるが、アッパーが足のくるぶしまでくる。今日ではオフィスにも履いていけるようなデザインになっており、特に寒い時期にはぴったりだ。

ローファー

クラシックなタイプとラフなタイプとがある靴紐のない靴。足の甲部分にストラップやスリット、またはタッセルなどで装飾されている。この靴は形崩れしないよう、靴べらで履くことが必須である。

モンク

ローファーとダービーを合わせたような少し風変わりな靴。靴紐はなく、サイドに留め金がある。

フル・ブローグ

紳士の装いにおける基本的要素であり、頑丈に作られている。典型としては、靴胴体部分に細かい穴の装飾が施され、さらにウィング・チップが施された木の葉型やダービーがある。

ハーフ・ブローグ

ウィング・チップに代わり、真っすぐなつま先装飾がついており、バラ形装飾(大小の穴で施された装飾)がついている場合もある。スーツにもジーンズにも合う。

ロングウィング

かかとまで伸びたウィング・チップが施されたスポーティーな外見。

ノーウィージャンズ

つま先に縫い目があり、U字形のふたが縫い付けてある。モカシンと似ている。

このブダペスト靴の製造に関するルポルターージュは、死亡した同僚ユッタ・ダイスの遺稿から作成した。文章は多少現況を補足した他は原文どおりである。

堂々たる 姿勢



譲れないものがある：質と審美眼は値引き対象にはできない。ブダペスト靴のVIPショップでもそうだ。これは有限会社ハインリッヒ・ディンケラッカーの首尾一貫した姿勢なのである。誰が定価以下で自分を売りこみたいと思うだろう？その代わり、ピーティングハイマーの旧市街地から石を投げたら届く距離で、シュトゥットガルトのツッフェンハウゼンからはエルファーならば一走り場所に位置するタール通り19番では品質の全てが保証されている。

自分だけの靴を楽しみに、世界各地から顧客が集まる。ディンケラッカーでは12の靴型から60種類のモデルが作られている。靴職人の芸の見せ

所、マイスターならではの作品を作り出すために、マイスターのクリストフ・レンナーが自ら足の寸法を測る。レンナーは最近の個人的な市場の感触として喜ばしいトレンドを実感する。「品質に対する意識が新たに高まってきて、若い層の方々からも支持をうけてきています」

一生履いていきたいと思うような靴を買いたいという意見は年齢を問わない。「オーダーメイドの靴を思い切って購入する人は、信用のできるまじめな製品を求めています。彼らは何か特別なものを探していますが、それを私たちが提供するのです」。一歩一歩どんな所においても。 ◀

Heinrich Dinkelacker GmbH
Talstrasse 19
74321 Bietigheim-Bissingen, Germany
Tel.: +49-7142-9174-0
Fax: +49-7142-917417

www.heinrich-dinkelacker.de

寸法にそって：
靴職人マイスター、クリストフ・レンナー

